

大会開催の実現は皆さんとの思いを共有できた結果です



全日本スキー連盟会長

いとう よしろう
伊藤 義郎

新年明けましておめでとうございます。

いよいよ来年の2月、札幌で「FISノルディックスキー世界選手権大会」が開幕いたします。私は、この大会を通じて、国内の競技レベルを向上させるとともに、道内スポーツを一層振興させていきたいとの思いで招致活動にかかわってまいりました。こうして実現することができるのも、地元札幌の皆さまと、その思いを共有できた結果であると考えております。

札幌には、冬季オリンピックを開催したという輝かしい歴史があります。2007年のノルディックスキー世界選手権大会の開催により、世界のウィンタースポーツの先進都市として、再び世界中から脚光を浴びることになるでしょう。

全日本スキー連盟は、札幌市そして組織委員会とともに全力で大会の準備を進めておりますので、大会の成功に向けて、札幌市民の皆さまにご協力をいただくとともに、世界のトップアスリートたちに熱い声援を送っていただきたいと思っております。



←大会ロゴマーク

ヨーロッパでのノルディックスキーの人気

市長：昨年のドイツで行われた世界選手権を視察に行ったのですが、観客の多さに驚きました。何十万もの人でスタンドが一杯になり、旗がゆらめいている。街の雰囲気も含め、日本とは全く違ってましたね。

伊東：日本とは違う雰囲気ですね。ヨーロッパでは、お祭り感覚で競技を見に来ていますから、観客数の規模が違います。ラッパなどの鳴り物もあり、とてもにぎやかです。日本での試合は、海外に比べるとやっぱりちょっと寂しい気持ちがあります。

市長：日本人はマラソンが好きなので、長距離のクロスカントリーも必ず好きになれるスポーツだと思うんだけどなあ。

伊東：やはりお客さんに来てもらって盛り上がるには、僕たち選手が良い成績を出さなきゃいけないですね。



大勢の観客で盛り上がる昨年のドイツで行われた世界選手権大会



スキーに興味を持ってくれる人が増えれば

市長：10月に、JR札幌駅の南口で札幌大会開催500日前のカウントダウンモニユメントの除幕式をしたんですよ。大会をPRして、まち全体の関心が高まれば、選手の皆さんのヤル気も違うのではないのでしょうか。

伊東：大会の開催地が盛り上がっていると、選手として参加していて楽しいですし、気分も乗ってきますね。また、自分の競技生活の中で、世界選手権という大きな大会が日本で、ましてや地元の北海道・札幌であるということは大変幸せに思います。

市長：最近、子供のスキー離れが進んでいると聞いています。伊東選手にぜひ、頑張ってもらって、子供たちに「スキーをやってみよう！」という気持ちを与えてほしいですね。

伊東：この世界選手権を機会にノルディック競技の人口も増やせたら、また、北海道の皆さまに感動してもらえたらよいなと強く思います！



札幌駅南口のカウントダウンモニユメント。ノルディック、北(ノース)、日本(ニッポン)の頭文字Nをかたどっています

活躍を期待します

市長：今年は、まず、2月にイタリアのトリノで冬季オリンピックがあります。出場権獲得はもちろん、好成績を期待していますよ。

伊東：応援してくれる皆さんの期待を裏切らないように頑張ります。また、来年の世界選手権の舞台は、ホームグラウンドの大倉山と宮の森競技場です。こちらについても、地の利を生かし、メダル獲得に向け、力を発揮したいですね。世界選手権では、会場にたくさんの方々に来ていただいて、熱い応援をしていただければと思います。

お年玉プレゼントがあります。5ページを見てね！